

#### 4.5 地球規模の環境変動（地球温暖化）

##### 【越冬ツバメ】

（鳥類調査）

- ・ 利根川水系鬼怒川で冬の1月にツバメを確認

夏鳥のツバメが2008年1月に利根川水系鬼怒川で確認されました。この時期に鬼怒川周辺でツバメが観察されることは珍しく、周辺で越冬した個体の可能性が考えられます。

ツバメは、日本全国に夏鳥として飛来します。人家や建造物の軒下に泥でお椀型の巣を作り、卵を産みます。孵化したひな鳥に親鳥が餌を運んでくる様子を間近で見られるなど、とても身近な野鳥です。冬になると台湾、フィリピン、マレー半島などに渡り越冬します。

夏季には調査を行った日本全国の一級河川21河川すべてで確認されましたが、冬季に確認されたのは鬼怒川だけでした。日本野鳥の会栃木県支部のホームページでも、2008年1月から2月にかけて鬼怒川でツバメが確認されたことが報告されています。同HPによると栃木県では通年3月初旬に飛来するそうですが、これほど早い時期に確認されたことは過去に3回しかなく、珍しい記録だということです。

地球温暖化が鳥類に与える影響として、冬鳥の越冬地が北の方に移動したり、夏鳥が冬になっても南の方に帰らなくなる可能性が指摘されています。鬼怒川の越冬ツバメが地球温暖化の影響かどうかはまだわかりませんが、地球温暖化が進行すると越冬ツバメが増えたり、ツバメの初見時期が早くなっていくことが考えられ、今後も注目していくことが必要と考えられます。

なお、霞ヶ浦や浜名湖周辺では越冬個体群がいることが知られていますが、これらは別亜種アカハラツバメと推定されています。



鬼怒川で1月に確認されたツバメ

（撮影日：平成20年1月31日）